

平成27年度会務中間報告

平成27年度 日本弁理士クラブ事業計画

幹事長 西 島 孝 喜

基本方針

本年度の日本弁理士クラブの事業計画の原点とも言える基本方針は以下のとおりです。

- (1) 知財活性化を目指す弁理士会の会務運営を全力で支援する。
- (2) ユーザー本位の知財制度を目指して行動する。
- (3) 組織改革に関する弁理士会からの要望に応える。
- (4) 5つの日弁構成会派の連携により日弁の相乗的、波及的な効果を誘発する。
- (5) 日弁に所属すると有意義であることを所属会員に実感してもらえる環境形成に尽力する。

本年度の日本弁理士クラブの委員会は以下のとおりです。

1. 政策委員会
2. 協議委員会
3. 規約委員会
4. 研修委員会
5. 会報委員会
6. ホームページ委員会
7. 実務問題検討委員会

政策委員会

政策委員会には弁理士会からの及び弁理士会への要望にかかる政策課題への対応とともに、本年度は特別に「弁理士とはなにか、どうあるべきか、弁理士会とはなにか、どうあるべきか、を踏まえて、日弁とはなにか、どうあるべきか、の検討」をお願い

しています。

ご承知のように最近弁理士を取り巻く環境は急激に変化しております。その中には、最近10年間での弁理士数の倍増、特許出願件数の低迷、知財事件数の停滞、日本産業の構造変化、とりわけ生産業の海外移転等があります。このような環境の急激な変化を踏まえ、これからの弁理士とは何か、特にその社会的任務、及び使命は何かについて、いまここでもう一度弁理士の原点に立って考え直す必要があるように思えます。

協議委員会・規約委員会

本年度は、会長選挙はありませんが、副会長を含む弁理士会役員の改選の予定があります。会員数の急激な増大に伴い、相対的に会派の組織力が低下しております。したがって、突発的な事態が生じて選挙が行われることになることも考えられます。今後の会長選の選挙対策を含めていろいろ検討することを考えております。このための日弁規約の改訂も場合によっては必要になることがある、と考えており、この場合には規約委員会と連携して日弁規約の改訂を検討することとしております。

研修委員会

研修委員会は付記試験のための研修を行う予定があり、必要に応じて会員のための研修を行っています。

会報委員会・ホームページ委員会

会報委員会とホームページ委員会は連携して会員への情報発信を行っています。情報化社会が進行する中で日本弁理士クラブの発信力を高めるための議論もいろいろなされております。社会の情報化が急速に進行するなかで会員向けにどのような形態及びどのような内容を提供するのが適切かを検証しつつ進めております。

実務問題検討委員会

本年度特別に設けたもので上記の弁理士の環境の急激な変化を踏まえて、知財の活性化が日本再興の生命線であるにとらえ、日本知財の活性化を模索するための委員会です。

そもそも知財制度は、納税制度等の強制的な義務制度とは異なり、ユーザーの自由意志に全面的に依存します。制度の性格上ユーザーの発意、活用意欲がなければ知財制度は機能せず、制度が衰退することは明白です。現状はそうになりつつあり、知財制度の衰退は日本の衰退と一体です。知財を活性化するためにはユーザーの知財制度活用意欲を刺激することが不可欠であり、そのためにはユーザーに知財制度を活用すれば夢と希望が叶えられるという実感を与えることが必要です。

率直に言って日本の知財制度の適正な運用がなされていないとは到底言えない状況です。五大特許庁長の会合からはじまったグローバルDシエの議論では最終的に世界統一特許庁を決定するための自然淘汰がはじまりました。

五大特許庁のなかで出願減少傾向が顕著なのは唯一、日本の特許庁であり、日本だけが顕著なユーザー減少の問題を抱えているのです。

その典型例として、実用新案制度が挙げられます。現在の実用新案制度は平成5年改正法で当時の審査遅延打開策としていわゆる無審査制度が導入されました。これによって出願数は激減し、今や日本の実用新案制度は有名無実化しております。中国、韓国、ドイツ等の他国の実用新案制度を研究し、初心者ユーザーが使いやすいハードルの低い適正な制度に変えることが必要です。

また、特許法104条の3は日本知財活性化の障害になる可能性があります。この規定に関して、多大な労力と時間を費やして権利取得したユーザーの知財の権利行使及び制度活用意欲の減退に繋がるような運用、解釈は排除されるべきです。

さらに、PLTとの国際調和にかかる期限徒過等の場合の権利回復措置についても現状の運用は、ユーザーを失望させ、制度活用意欲を削ぐだけでなく、制度に対する憎悪を誘発する要因になっており

ます。米国の運用では期限を徒過してもユーザーの意志によるものでない限り救済されます。そもそも知財制度の利用はユーザーの意志及びその負担を前提に始まるものですから、ユーザーの意向を尊重する制度運用を期すのは知財の活性化の原点であります。日本は真のユーザーフレンドリーの観点において世界で最も遅れております。

このままでいくとユーザーに最も優しい制度を有する米国が世界統一特許庁に選択されることは間違いありません。

日本人は第2次大戦という悲惨な戦争での敗戦を経験し、地獄のような貧困から先進国へと驚異的な復興を成し遂げました。当時の戦勝国であった先進国に追いつけ追い越せの精神、及び日本人の緻密な頭脳とが、相まって、高度な技術が生まれ、戦後の知財戦争では日本は戦勝国に圧勝しました。知財戦争では守りと奢りは禁物です。勝ち目はありません。日本の知財制度はそうになりつつあることを懸念いたします。知財制度のグローバル化はますます加速しております。グローバルDシエの議論も進んでおります。これからの知財制度を見据えた議論もこの実務問題検討委員会でやっていきたいと思えます。

本年度の日本弁理士クラブの活動につきましてご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

組織と活動

副幹事長 磯貝 克臣

I. 日弁役員

幹事会

幹事長 (春秋) 西島 孝喜

副幹事長 (春秋) 磯貝 克臣

[庶務・相談役会・実務問題検討
担当]

(P A) 坂本 智弘

[会計・ホームページ・広報担当]

(南甲) 津田 理

[旅行・協議・研修担当]

(無名) 羽鳥 亘

[旅行・協議・会報担当]

(稲門) 菅原 峻一

[政策・規約担当]

幹事 (春秋) 山崎 一夫 黒崎 文枝

(P A) 高橋 雅和 小野 暁子

(南甲) 林 剛史 楠 和也

(無名) 中所 昌司 矢崎 剛平

(稲門) 貝塚 亮平 綾木健一郎

会計監事 (無名) 須藤 雄一

(稲門) 市川 ルミ

II. 日弁委員会

1. 政策委員会 (担当副幹事長 菅原 峻一)

政策委員長 (稲門) 杉村 純子

副委員長 (稲門) 榎本 英俊

(P A) 林 篤史

(春秋) 岩本 康隆

(南甲) 金本 哲男

(無名) 篠原 淳司

委員 (稲門) 倉持 誠 角田 朗

(P A) 堀籠 佳典 上山 浩

(春秋) 竹田 淳 榛葉 貴宏

(南甲) 河野 誠 石橋 良規

(無名) 鈴木 一永 竹山 尚治

2. 協議委員会 (担当副幹事長 津田 理 羽鳥 亘)

協議委員長 (南甲) 樺澤 聡

副委員長 (南甲) 広瀬 文彦

(無名) 亀崎 伸宏

(P A) 渡邊 伸一

(春秋) 出野 知

(稲門) 細田 浩一

委員 (南甲) 藤沢昭太郎 服部 秀一

(無名) 鶴目 朋之 中 大介

(P A) 網野 誠彦 伊藤 隆治

(春秋) 藺田新太郎 齋藤 学

(稲門) 浅田 信二 梅澤 崇

3. 研修委員会 (担当副幹事長 津田 理)

研修委員長 (無名) 中 大介

委員 (無名) 本間 博行

(南甲) 藤沢昭太郎 山田 一範

(P A) 中野 圭二 水崎 慎

宮本 陽子

(春秋) 三田 康成 米屋 崇

(稲門) 志摩美裕貴 浅田 信二

4. 規約委員会 (担当副幹事長 菅原 峻一)

必要に応じて編成

5. 会報委員会 (担当副幹事長 羽鳥 亘)

会報委員長 (無名) 中村 希望

委員 (無名) 工藤 貴宏

(P A) 松宮 尋統 齋藤 誠

(春秋) 井上 正 加曾利正典

(南甲) 石井 茂樹 松田 次郎

(稲門) 植田 晋一 高橋 伸也

6. ホームページ委員会 (担当副幹事長 坂本 智弘)

HP委員長 (P A) 下田 俊明

委員 (P A) 帯包 浩司

(春秋) 山崎 貴明

(南甲) 山田 一範

(無名) 山田 勉
(稲門) 中野 寛也

7. 実務問題検討委員会 (担当副幹事長 磯貝 克臣)

実務委員長 (春秋) 太田 昌孝
委 員 (春秋) 鈴木 信彦
(P A) 中尾 直樹
(南甲) 石橋 良規 河野 生吾
(無名) 黒川 恵 篠原 淳司
(稲門) 筆宝 幹夫

8. 広報委員会 (担当副幹事長 坂本 智弘)

休会の予定

III. 日弁相談役会 (担当副幹事長 磯貝 克臣)

常任相談役 (P A) 谷 義一
(春秋) 佐藤 辰彦
(南甲) 幸田 全弘
(稲門) 稲木 次之
(無名) 筒井 大和
相談役 (P A) 浅村 皓 大西 正悟
岡部 正夫 岡部 讓
田中 正治 村木 清司
渡邊 敬介
(春秋) 奥山 尚男 篠原 泰司
清水 善廣 竹内 三郎
波多野 久
(南甲) 伊丹 勝 樺澤 聡
樺澤 襄 久保 司
高橋 三雄 瀧野 秀雄
野本 陽一
(無名) 下坂スミ子 水野 勝文
(稲門) 宇野 晴海

IV. 日本弁理士会役員

1. 執行役員会

会 長 (南甲) 伊丹 勝
副会長 (南甲) 中村 仁
(南甲) 高橋 大典
(P A) 小島 清路

(春秋) 岩壁 冬樹
(無名) 橋本虎之助

執行理事

(南甲) 真田 有
(P A) 本多 敬子 坂本 智弘
(春秋) 大澤 豊
(無名) 香原 修也
(稲門) 大西 達夫

2. 常議員会

1 年度 (P A) 大西 育子 松井 孝夫
岩見 晶啓 梅田 幸秀
(春秋) 玉真 正美 佐藤 光俊
大石 治仁 藤田 和子
太田 昌孝

(南甲) 中島 正博 藤田 健
河野 生吾 林 剛史
(無名) 羽鳥 亘 鈴木 一永
(稲門) 西村 公芳

2 年度 (P A) 狩野 彰 加藤ちあき
青木 充 杉村 憲司
(春秋) 辻田 幸史 横田 修孝
村瀬 裕昭 岩本 康隆
柴田富士子

(南甲) 河野 哲 田辺 政一
松田真砂美 藤沢昭太郎
(無名) 菅原 修 須藤 雄一
(稲門) 吉田 正義

3. 監事会

1 年度 (春秋) 小宮 良雄
(南甲) 染谷 伸一
(稲門) 三好 祥二
2 年度 (P A) 飯田 伸行
(無名) 矢崎 和彦

以上

平成27年度 総会承認事項

副幹事長 磯 貝 克 臣

第1回総会

日時：平成27年3月26日（木）18:00～19:00

会場：弁理士会館地下1階 第A－B会議室

（1）平成26年度日弁事業報告の承認を求める件
菅原峻一副幹事長による説明、報告の後、賛成多数により承認。

（2）平成26年度日弁決算報告の承認を求める件
坂本智弘副幹事長による説明、報告の後、賛成多数により承認。

（3）平成27年度日弁事業計画の承認を求める件
西島孝喜幹事長による説明の後、賛成多数により承認。

（4）平成27年度日弁予算の承認を求める件
坂本智弘副幹事長による説明の後、賛成多数により承認。

（5）平成27年度日弁予算予備費の取り崩しの承認を求める件
西島孝喜幹事長より、幹事会への一任を求める旨が説明され、賛成多数により承認。

（6）平成28年度日本弁理士会役員推薦に係る承認を求める件
西島孝喜幹事長より、幹事会への一任を求める旨が説明され、賛成多数により承認。

平成27年度 日本弁理士クラブ研修委員会報告

研修担当副幹事長 津 田 理

本年度の日弁研修は、以下の研修委員会メンバーにより、特定侵害訴訟代理業務試験対策に絞って実行されました。

研修委員会メンバー（敬称略）

委員長（無名）中 大介

委員（南甲）藤沢昭太郎、山田 一範

（P A）中野 圭二、水崎 慎、

西田 憲孝、宮本 陽子

（春秋）三田 康成、米屋 崇

（無名）本間 博行

（稲門）志摩美裕貴、浅田 信二

1. 過去問解析講座

時間：18：30～20：20

場所：弁理士会館

講師：弁護士・弁理士 石神恒太郎先生（青和特許法律事務所）

（1）7月8日（水）

特定侵害訴訟代理業務試験のポイント（侵害訴訟の要件事実について）、平成23年度第1問解説

（2）7月15日（水）

平成24年度第1問、第2問解説

（3）7月22日（水）

平成25年度第1問、第2問解説

（4）7月29日（水）

平成26年度第1問、第2問解説

（5）8月5日（水）

平成23年度第2問解説、過去問の傾向と試験対策

受講者数 通学19名、通信9名

2. 模擬試験

時間（模試）：18：10～21：00

時間（解説）：18：30～20：30

場所：弁理士会館

講師：弁護士・弁理士 柳下彰彦先生（弁護士法人内田・鮫島法律事務所）

（1）8月27日（木）

第1回模試 特許法関連模擬試験1問

（2）9月10日（木）

第1回解説 第1回模試の結果講評等（最初の15分は小問対策模試）

（3）9月17日（木）

第2回模試 商標・不正競争防止法関連模擬試験1問

（4）9月30日（水）

第2回解説 第2回模擬の試験結果講評等（最初の15分は小問対策模試）

受講者数 20名

3. 最後に

日弁研修の企画・実行に際しては、中委員長をはじめ多くの研修委員会メンバーの方々にご協力を頂きました。末筆ではありますが、あらためて御礼を申し上げます。本当に有難うございました。

平成27年度 日本弁理士クラブ予算の紹介

平成27年度会計担当副幹事長 坂本 智弘

本年度も、多くの繰越金を頂いております。前年度の関係各位のご尽力に感謝いたします。支出に關しましては、無駄を省いて将来のために十分な資金を確保するとの考えのもと、本年度も例年同様に前年度の実績を踏まえて予算を組んでおります。本年度は、旅行会に多くの若手の先生にご参加頂くため、また政策委員会の活動を活発にするために予算額をあげさせて頂きました。実務問題検討委員会を新たに立ち上げ、休会していた規約委員会の活動を再開するためにそれぞれ予算を計上しました。（単位：円）

収入の部

前年度会計からの繰越金	8,524,729
各クラブ分担金	2,500,000
その他	—
合 計	11,024,729

支出の部

例会・総会	200,000
幹事会	400,000
幹事長渉外費	400,000
会報委員会	1,000,000
協議・選対委員会	1,500,000
政策委員会	300,000
HP委員会	200,000
研修委員会	200,000
日弁五派交流会	400,000
実務問題検討委員会	100,000
相談役会	200,000
旅行会	900,000
旅行会ゴルフ大会補助	50,000
ボウリング大会補助	50,000
テニス大会補助	50,000
庶務	150,000
慶弔費	150,000

渉外・交通	500,000
規約委員会	200,000
次年度活動準備費	200,000
予備費	3,874,729
合 計	11,024,729



平成27年度 日本弁理士クラブ 政策委員会中間報告

政策委員長 杉 村 純 子

1. 委員会の構成

平成27年度日本弁理士クラブ政策委員会（以下、「政策委員会」）は、以下のメンバーにより構成されており、活動を平成27年1月27日より開始した。

- 委員長 杉村 純子(稲門)
- 副委員長 榎本 英俊(稲門)・金本 哲男(南甲)
篠原 淳司(無名)・林 篤史(P A)
岩本 康隆(春秋)
- 委員 石橋 良規(南甲)・上山 浩(P A
(4月より))・倉持 誠(稲門)
河野 誠(南甲)・鈴木 一永(無名)
高梨 範夫(P A(3月まで))
竹田 淳(春秋)・竹山 尚治(無名)
角田 朗(稲門)・堀籠 佳典(P A)
榛葉 貴宏(春秋)

2. 諮問事項

平成27年度の政策委員会への諮問事項は以下のとおりである。

- (1) 弁理士会から求められる各種テーマについての意見・要望のとりまとめ
- (2) 弁理士会等に対する意見・要望のとりまとめ
- (3) 弁理士とはなにか、どうあるべきか、弁理士会とはなにか、どうあるべきか、を踏まえて、日弁とはなにか、どうあるべきか、の検討

3. 活動報告

第1回委員会(平成27年1月27日)

(1) 諮問事項についての説明

幹事会からの諮問事項の趣旨を理解し、各委員で認識の統一を図った。

諮問事項(1)については、迅速性が必要であり、メール等も活用して議論をすすめることとした。諮問事項(2)については、日弁(政策委員会等)で

挙げた課題を日本弁理士会（以下「弁理士会」）等にフィードバックするとともに、弁理士会執行部と密に連絡しあい、弁理士会での検討課題等について日弁（政策委員会）内でも積極的に議論することとした。日弁として弁理士会執行部を支えるとともに、新たな提言もおこなっていくこととした。諮問事項（3）については、諮問事項（1）及び（2）の議論を深めつつ考えていくこととなった。

（2）適切な権利行使のあり方、中小・ベンチャー企業及び産学連携支援策についての意見交換
内閣官房知的財産戦略本部では、推進計画2015策定に向けて、専門委員会が開催されているところであり、更に2月～4月にかけて知財紛争処理システム等のタスクフォースが別途立ち上がる予定である。当委員会ではタスクフォース立ち上げに先がけて標記議題について検討を行った。（抜粋意見）。

- ・侵害訴訟における無効の抗弁は、ユーザーの選択肢の一つとして重要な制度である。特に中小企業にとっては、裁判所での一元的解決を要望する場合も多い（費用の面等より）。
- ・損害賠償額については、実際の代理人費用もカバーできる損害賠償額の認定制度があってもよいのではないか。
- ・産学連携について、中国の精華大学では、外国企業に積極的にアピールをしている。日本の大学でも、このようなアピールを支援する補助金制度があってもよいのではないか。
- ・地方の中小企業の活性化のために、信金と弁理士会が協力関係を結べないか。 等

第2回委員会（平成27年2月5日）

（1）ダブルブランドについての例規改正案の検討
弁理士会執行部より、「ダブルブランド」についての例規改正案の提示があり、この改正案について検討するために、急遽、委員会を開催した。

ご担当の上山副会長（当時）に、委員会にご出席いただき、今回の「ダブルブランド」の例規改正の趣旨及び改正案を説明いただいた。

委員会としては、改正の趣旨そのものは理解できるが、弁理士会会員全員の利害にかかわることであ

るので、この問題についてもっと会員に周知徹底して議論することが必要ではないかとの結論に至った。

第3回委員会（平成27年2月17日）

（1）ダブルブランドについての経緯の説明

第2回委員会開催後、西島幹事長とともに、弁理士会の吉村副会長（当時）を訪問して、日弁としてのダブルブランドについての意見を申し上げた結果を報告した。更に、ダブルブランド例規改正についての課題及び現状についての検討を深めた。

（2）臨時総会の議題について

ダブルブランドについての議題は臨時総会の議題から削除された。

また、第3号議案～第6号議案については、活発な意見交換がなされ、多くの課題の提案がなされた。

後日、西島幹事長とともに弁理士会執行部に、日弁の議論の内容を申し上げた。

（3）平成27年度事業計画（案）について

次年度の事業計画の最新版案を伊丹次期会長からいただき次第、内容の議論を行って、伊丹次年度会長にフィードバックすることとした。

（4）中小企業支援・活性化、特許訴訟等システムの改善点について

中小企業支援・活性化について、実用新案・意匠等の観点から意見交換するとともに、特許訴訟等紛争処理システムについては、無効審判、訂正審判、訂正請求、補正等を含め、強い特許権を創出するという観点から意見交換を行った。

第4回委員会（平成27年3月17日）

（1）実用新案制度・意匠制度について

中小企業支援の観点より、実用新案制度及び意匠制度の活性化についての政策議論を行った（抜粋意見）。

・現状の実用新案制度は、審査負担の軽減、ライフサイクルが短い等の理由により、無審査となった経緯があるが、最近の特許庁の審査が速くなったため、審査主義とすることはいかがか？中小企業は、実用新案の活用を望んでいる場合も多い。

・実用新案を審査主義とした場合の登録要件の緩和

と権利行使のバランスを考えるべきである。

- ・ベンチャービジネスが多いソフトウェア開発業界も考慮して、保護対象を広げる方向がよいのはないか。
 - ・サーチレポートを導入してはいかがか。
 - ・実用新案の出願書類をもっと簡易なものにしてはいかがか。
 - ・部分意匠をもっと周知・活用すべきである。 等
- (2) 特許紛争処理システム、損害賠償制度、無効審判について

知財推進戦略本部でタスクフォース会合が開催されている関係で、標記議題について議論した。なお、知財推進計画2015のパブコメ募集が5月頃に実施される予定である。

なお、当委員会での議論の内容は、5月に実施された弁理士会のパブコメ募集意見に反映されている。

(3) 次年度事業計画案について

次年度事業計画案について意見交換を行った。

第5回委員会（平成27年4月21日）

(1) 事業計画案について

伊丹執行部を日弁として支えるためにも、事業計画案について各会派（5派）へ意見募集を行い、いただいたご意見を基に、当委員会で検討を行った。

- ・橋本副会長に委員会にご出席いただき、「弁理士知財キャラバン」についてご説明いただき、活発な質疑応答が行われた。
- ・事業計画案のその他の内容についても多数の意見が提案され、活発な議論がなされた。
- ・各会派からのご意見と、それを踏まえた政策委員会での意見を、後日、中村副会長にフィードバックした。

第6回委員会（平成27年5月19日）

(1) 役員選挙の投票制度について

役員制度改革委員会において検討されている役員選挙の投票制度について、政策委員会でも郵便投票制度のメリット・デメリット、直接投票制度の導入の可否について検討を行った。

(2) 弁理士会の外部役員の増加について

現状の外部監事2名の他に、弁理士会で外部役員を増加させることについての必要性等を検討した。

第7回委員会（平成27年6月16日）

(1) 知財推進計画2015について

弁理士会からパブコメ募集意見として「地方における知財活用促進」と「知財紛争処理」についての意見を知財戦略本部に提出した。これまで政策委員会で議論してきた内容は、弁理士会担当委員会にフィードバックしてあり、パブコメに一部反映されている。

(2) グローバルドシエについて

グローバルドシエについての経緯と現状の説明をおこなった。弁理士会内で、本年度、グローバルドシエ等を含めた知財システムについて検討する新しい委員会「知財システム検討委員会」が立ち上がったので、政策委員会としても協力していくこととなった。

グローバルドシエについては、PLT、e-PCT等の他の知財システムとともにバランス良く検討していくことが必要である。

これらのグローバル知財システムについて、活発な質疑、検討が行われた。

第8回委員会（平成27年6月16日）

(1) 弁理士会執行部より、「役員選挙の投票制度」についての意見募集があり、日弁としての意見をまとめるために、急遽、各会派への意見募集を行った。ご担当の中村副会長に、委員会にご出席いただき「役員選挙の投票制度」の改正についての趣旨及び改正案をご説明いただいた。

各会派からいただいたご意見を基に、積極的な意見交換がなされた。

役員選挙の投票制度については、改正案の趣旨については理解できるが、地方会員の意見も広く聞いて、もう少し検討が必要ではないかとの意見が大半であった。

後日、検討結果を弁理士会執行部に報告した。

政策委員会は、弁理士会の伊丹執行部をしっかりと

とサポートすべく、これまで多岐にわたる議題について積極的な議論を展開してきている。グローバルDシエ・PLT等についてのグローバルな知財システムについても、弁理士会の知財システム検討委員会へフィードバックするとともに、今後の弁理士のあり方を模索しているところである。

貴重な時間を頂戴して、積極的な議論を展開していただいている政策委員会の先生方に、この紙面をお借りして御礼を申し上げます。

以上

平成27年春の叙勲・褒章受章者

【叙勲者のうち旭日章】(弁理士業務功労)

旭日双光章 中村 茂信

【叙勲者のうち瑞宝章】(通産行政事務功労)

瑞宝小綬章 永坂 友康

瑞宝小綬章 内藤 照雄

瑞宝小綬章 橋本虎之助

【褒章】(弁理士業務功労)

黄綬褒章 功力 妙子

(敬称略)



旅行会報告

旅行会担当副幹事長 羽 鳥 亘

平成27年度日本弁理士クラブの旅行会は、同年6月6日(土曜)～7日日(日曜)にかけて、松山道後温泉「椿館本館」にて開催されました。

昨年度の日本弁理士会の旅行会が、北海道開催で77名という多くの会員の参加を頂いておりましたが、昨年に引き続いての遠隔地開催となり参加者が減少するのではと心配しておりましたが、最終的に83名の多くの会員、来賓の先生方のお申し込み・ご参加を頂き、盛会のうちに終了する事ができました。

本年度は、松山道後温泉での開催であったため、過去開催しておりました三派協議は行わず、「伊丹会長と語る会」のみを開催させて頂き、宴会集合時間まで各参加者には自由に松山観光をして頂きました。

以下、ご参加いただいた先生方の集合写真です。



恒例の集合写真撮影のあと、ご参加頂いた来賓の先生方(正副会長、西日本弁理士クラブ、弁理士連合クラブ所属の弁理士クラブ、弁理士同友会)、日本弁理士クラブ所属の先生方(構成団体の春秋会、稲門弁理士クラブ、南甲弁理士クラブ、PA会、無名会)は、可能な限り纏まってそれぞれの御膳にお座りいただき、開会セレモニーを行いました。

司会者による開会宣言の後、主催者である日本弁理士クラブより、平成27年度幹事長の西島孝喜先生が主催者を代表して歓迎の挨拶を述べました。

ご来賓としては、日本弁理士会会長の伊丹勝先生から、弁理士キャラバン活動を中心とする日本弁理士会の会務の進捗状況と、日本弁理士クラブ会員の

日頃の会務への協力に対する感謝をこめたご挨拶をいただきました。

続いて、西日本弁理士クラブ幹事長の佐木啓二先生から、関西人らしいユーモアに富んだご挨拶をいただき、弁理士連合クラブ幹事長の山本晃司先生からは、昨年度の古谷史旺会長を日本弁理士クラブが支えて頂いたお礼と、松山での開催に感謝するご挨拶をいただきました。

続きまして、日本弁理士クラブ常任相談役の浅村皓先生に乾杯のご発声をいただき平成27年度旅行会の宴会がスタートしました。

宴会では、小島副会長による手品の余興等があり、例年通り20時前に中締めとなり、続いて、二次会のカラオケ大会となりました。

今回は53人という多くの先生方がカラオケ大会に参加して頂き、まさに、立錐の余地の無い程の盛況ぶりでした。

今回は、特別メニューとして、21時に（浴衣から着替えて）ロビー集合して頂き、松山市内の「Club撫子」で三次会企画させて頂きました。

この三次会にも30数名の先生方の参加を頂き、大盛況でした。

次の日がゴルフの先生方は、三次会でホテルに戻られ、次の日に備えられていたようですが、多くの先生方が道後温泉に戻られて四次会、五次会と行かれたようです。

今回の旅行会を企画運営して頂いた日本弁理士クラブ幹事の皆様、また、積極的に多くの参加者を募集していただいた各会派の幹事長の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

6月7日は、朝から、観光組、ゴルフ組、自由行動組に分かれてそれぞれ別々に愛媛を満喫されたと思います。

ゴルフ組報告は、別途担当から報告がありますので、観光組に関し、簡単に報告させていただきます。

観光組は、瀬戸内海の多美島や日本三大急潮の一つとして有名な来島海峡の急流を観潮船で観光しました。

また、昼食には、七輪バーベキューで新鮮な魚介類を堪能しました。

以下、観光組の観光風景を紹介します。



観潮船の前で！



七輪バーベキューの様子！



平成27年度 日弁サマーパーティ報告

副幹事長 菅原 峻 一

『日弁サマーパーティ』が、8月28日（金）19時から、六本木ヒルズクラブにて開催されました。日弁サマーパーティは、日弁会員同士の交流をより深めるための日弁5派交流会として、従来行っていた新年会の代わりに昨年から企画された会であり、日弁のイベントにまだ馴染みの少ない若い会員や女性の会員の皆様に多く参加して頂くことを目的としています。登録年数と性別に応じて会費を設定すると共に、若者向けで高級なイメージのある六本木ヒルズにある会員制クラブ「六本木ヒルズクラブ」での立食パーティを開催しました。また、会話のきっかけ作りとなるように予算1000円程度のプレゼント交換を企画し、プレゼントを1つ持参してもらいました。その結果、日弁会員86名が参加し、登録5年未満の会員と女性の合計比率が約40%の華々しく盛大な会となりました。

パーティ当日は、受付開始時刻直後から大勢の先生方がお越し下さり、乾杯前から飲めるようにふんだんに準備されたウェルカムドリンクを片手に六本木ヒルズの森タワー51階からの窓一面に広がる素敵な六本木の夜景を楽しみながらさっそく交流を深めていらっしゃいました。受付時には、余興用に1枚ずつトランプを引いていただき、プレゼントとともにパーティ会場に持ち込んでいただきました。開宴時には既にかなり盛り上がっている会場の中央壇上において、夜景と日弁の旗をバックに、開会のご挨拶を本年度日弁幹事長の西島孝喜先生に行って頂きました。引き続き日弁会員向けメッセージと乾杯のご挨拶を、日弁会員でもある本年度日本弁理士会会長の伊丹勝先生に行って頂きました。開会のご挨拶、日弁会員向けメッセージでは、若い会員や女性の会員向けにリラックスした雰囲気の中でフランクに、そしてコンパクトに日弁や弁理士業界にまつわるお話を頂戴しました。その後、六本木ヒルズクラブの豪華なお食事やお飲み物をお楽しみ頂きながら、

立食形式ならではの多くの方との会話を楽しんでいただき、会場の至るところで笑い声の絶えないパーティとなりました。



西島孝喜日弁幹事長から開会のご挨拶



伊丹勝会長から日弁会員向けメッセージ



立食パーティなので色々な人と話せました

余興では、日弁副幹事長の磯貝克臣先生（春秋）、日弁幹事の綾木健一郎先生（稲門）および中所昌司先生（無名）にも司会者席に加わって頂き、受付で配布したトランプを用いて、会派内の親睦を高めるべく会派対抗ポーカー大会を開催しました。各派の幹事長・代表に各派の会員の引いたトランプを集めていただき、スマホ片手にどの手役が強いかに真剣に検索する会員も出てくる中、手役作りで盛り上がりました。40名弱で参加されたPAが優勝候補と思

われた中、10～20名程度で参加の4会派にはハンドとしてジョーカーが配られ、混戦が予想されます。中央檯上に各派の幹事長または代表が集合して「せーの」の掛け声とともに手役をオープンしました。10名で参加の南甲がロイヤルストレートフラッシュを完成させるという予想を超える強運を見せつけて優勝賞品を獲得、2位は春秋が獲得、3位は紅一点の市川幹事長率いる稲門が獲得、優勝候補のPAはA（エース）と数字の2がストレートでは繋がらないとの厳密なルールで幻のストレートフラッシュがフラッシュ扱いとなり（杉村憲司幹事長には大変申し訳ありませんでした）4位と波乱もあり、無名の齋藤幹事長が無念のブービーメーカーとなりました。



余興時の司会者席&広がる六本木の夜景



会派対抗ポーカー大会での各派幹事長、代表



優勝の南甲の藤沢先生と2位の春秋の平山先生

その後、プレゼント交換では引き続き手元に1枚ずつ戻していただいたトランプを用いて、自分の手元のトランプの絵柄と数字が同じとなる方を探していただき、ランダムな交流を目的にプレゼント交換と自己紹介をしていただきました。こちらも先着10組20名には賞品を用意し、檯上で互いに紹介し合っていました。

最後にトランプの枚数と参加人数の関係上、プレゼント交換相手がそもそも会場にいなかったプチアンラッキーな方には正面檯上に集まっていたいただき、最後の運試しでプレゼント総取りじゃんけん大会が行われ、勝者1名が10数個のプレゼント総取りとなりました。なお、プレゼントを取られてしまった方にはご用意した参加賞をお渡しし、余興は終了しました。

最後に、日弁政策委員長の杉村純子先生に閉会のお言葉を頂戴し、お開きとなりました。パーティの運営にご協力頂きました先生方、参加者の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。これからも日弁5派交流会（アンケート結果では来年度以降の日弁5派交流会は89%がサマーパーティ継続、11%が他イベント希望でした）が末永く続いていくことを祈念してご報告の結びとさせていただきます。ありがとうございました。



杉村純子日弁政策委員長から閉会のご挨拶

アンケート結果	満足度（5段階）
開催日時について	4.8
会場について	5.0
参加費について	4.6
余興について	4.1
総合評価	4.6

平成27年度 日弁ゴルフ大会 報告

ゴルフ大会担当副幹事長 津 田 理

今年の日弁ゴルフ大会は、日弁旅行会の2日目「6月7日(日)」に開催されました。6月は梅雨の時期ということもあって、天気が心配されたのですが、参加者の日頃の行いの良さの賜物でしょうか、素晴らしい好天に恵まれました。

大会が行われたのは「エリエールゴルフクラブ松山」。コースからは、瀬戸内海国立公園の大パノラマを一望することができ、女子プロのトーナメント(大王製紙エリエールレディスオープントーナメント)も開催される名コースです。

松山での開催ということで、帰りの飛行機の時間が気になりました。そのため、OUT3組・IN2組で8:00に同時スタートとしたのですが、それでも、旅館を出るのは朝6:30。朝食はバスの中でとって頂くことになりました。当日のタイムスケジュールは、おおよそ下記のとおりでした。

- 6:30 旅館発(バスの中で朝食)
- 7:00 ゴルフ場着
- 8:00 スタート
- 16:00 パーティー開始
- 17:00 ゴルフ場発
- 18:00 空港着

今回の参加メンバーは5組19名。二日酔いや寝不足とも闘いながら、楽しくプレーをして頂いたものと信じています。主な成績は以下のとおりです(敬称略)。

優勝	坂本 智弘
準優勝	永井 義久
3位	田中 達也
6位	永田 元昭
7位	平山 淳
10位	西島 孝喜
BB賞	佐木 啓二
BBメーカー賞	中所 昌司
ベスグロ賞	田中 達也
猛打賞	中所 昌司

優勝は坂本智弘先生。さすがです。ベスグロの田中達也先生は、ハンデがつかず3位という結果になりました。今回コースデビューだった中所昌司先生は、メーカー賞と猛打賞のダブル受賞でした(お疲れ様でした)。が、とても楽しんで頂いたようで、また是非参加したいと仰られていました。

今回、二日酔いや寝不足のために実力を出し切れなかった先生方、来年もお待ちしております。

心配していた飛行機の時間にも無事に間に合い、今年の日弁ゴルフ大会も無事に終わることができました。末筆ながら、関係者の皆様には、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

